

増穂だより

M A S U O D A Y O R I

中学卒業式典号



芝浦工業大学柏中学高等学校

<http://www.ka.shibaura-it.ac.jp>

〒277-0033 千葉県柏市増尾700番地

TEL 04-7174-3100(代) FAX 04-7176-1741

編集 総務部

発行日 令和2年3月21日

印刷所 株横浜綜合写真

やさしさと厳しさを備えて

— 19期生卒業 —

2019年度芝浦工業大学柏中学校卒業式告辞

— 学校長 野村 春路 —

自立する

今日は自立するということについてお話ししようと思います。今から3年前、みなさんは中学生になりました。その際、周囲の誰かから「もう中学生なのだから、誰かに手伝ってもらうのではなく、自分のことは自分でしっかりできるようにする。自立しよう。」というようなことを言われたのではないのでしょうか。そのようなことを聞かされたとしたら、その後みなさんは、自立の方向へと進みましたか。保護者や周囲の人に頼らずに、自分でできることが増えましたか。一般には、大学などを卒業して社会人になって自分で収入を得るようになると一人前である、自立したとよく言われます。この点から見れば、保護者も学校の先生たちも、みなさんに自立して欲しいと思っています。

中学生や高校生に早く自立することを促すのはなぜか。それは、今の社会は自立を良しとし、個人が自分の足で立っていることを前提としているからです。その上現在は大きな変革期にあたり、自分の頭で考え自立している人材をますます強く求めていると思います。

このこと、つまり「社会は個人が自分の足で立っていることを前提としている」という点を私は当たり前のように認めていたのですが、最近新聞記事を読んで気づかされたことがあるのです。

臨床心理学者で臨床心理士でもある東畑開人（とうはたかいと）さんが、次のような主旨のことを述べています〔朝日新聞：2020年1月22日〕。東畑さんは、大学の先生でもあります、カウンセラーとして社会の中でおいていかれてしまった人のケアの仕事に携っています。東畑さんは、「自立を原理とする大きな社会にあって、依存を原

理とする小さなケアは不可視化されやすい。言い換えれば、今の社会は大きくて、小さなケアの仕事は見えない。それは社会が自立を良いとし、個人が自分の足で立っていることを前提としているため、ケアが誰かが誰かに頼り、必要なものを提供してもらおうという、本質的に「依存」を原理とした営みであるため、ケアは見えないのである」と言います。そして、その後「自立した人は、依存の価値を見失いやすい。誰かに依存していることを忘れるほどに依存できている状態が自立であるからだ。良き世話は感謝されない。いちいち感謝されないほどに、うまく依存をさせているのが良いケアだ。あなたが新聞を読みながら、いちいち座っている椅子に感謝しないのと同じだ。」「自分を自立した人だと思っていた人たちは、自分の足場が崩れた時、自分の足で立っていたのは、ところどころに見えないほどに小さな椅子がきちんと用意されていたからなのだとようやく気付く。」と述べています。

みなさんは、やはり誰かに感謝されるために自立を目指すべきです。ただし、自立は「誰の世話にもならない」という孤立ではなく、「自分が誰かに依存していること」を前提としているものなのではないのでしょうか。つまり、「ああ、自分は見えない誰か個人や社会の仕組みによって支えられているのだなあ」と気づいた時こそが、本当に自立し始めた時なのだと、私は考えるようになりました。

みなさんは、もっと周囲のこと、社会の出来事について積極的に知ろうとすべきです。そして、自分と様々なこととの繋がりに注意を払ってください。そこに自立の鍵があると思います。

中学の卒業式にあたり、今後みなさんが自立に向かって行くことについて、お話しをしました。

目次

学校長告辞 / 式次第	1 P
表彰 / 校歌	2 P

- 一、開式の辞
- 一、卒業証書授与
- 一、賞状賞品授与
- 一、在校生代表の言葉
- 一、卒業生代表の言葉
- 一、閉式の辞



創立者有元史郎記念賞・優等賞

D組

今回、このような賞をいただくことができとても嬉しいです。この三年間、僕は素晴らしい先生や友達に恵まれ、また部長やクラス会長といった貴重な経験を多くさせて頂きました。これらの経験を通してわかったのは、「みんな、長所を持っている」ということです。各々が持つ長所を見つけ、それを活かすのがリーダーとして大切なことなのだと感じました。

次の三年間も充実したものにできるよう中学での経験を生かして頑張りたいです。

これまで指導いただいた先生方、友達、そして家族には本当に感謝しています。ありがとうございました。

千葉県私立中学高等学校協会賞・優等賞

D組

このような賞をいただくことができとても嬉しいです。僕が大切にしてきたことは、『一度決めたことは最後までやりきる』ことです。僕はこの三年間、部活のために学校に行っていたと言えるほど、部活が好きでした。とは言っても、本業の勉強を疎かにしてはいけなかったので、とにかく授業中は集中しました。三年間、友人や家族、学年の先生方、部活の先輩や顧問の先生などたくさんの人に支えていただきました。本当にありがとうございました。

芝浦工業大学柏中学高等学校校歌
毎日が喜び

小 椋 佳
川 辺 真
作曲 詞作
編 曲

一、 緑と実り 自然の恵み

抱かれて建つ 白い学び舎

出逢う友は皆 輝く太陽のかなた

無限の宇宙へ 挑む翼を磨く

伝統を築くものたち

新しい道を 拓くものたち

柏の青春 毎日が学ぶ喜び

二、 伸びやかな風 行く大津川

深い想いの 城址公園

集う友は皆 あふれる友情をかかえ

それぞれの夢に 熱い誓いを結ぶ

責任を果たすものたち

自由な心を抱くものたち

柏の青春 毎日が学ぶ喜び

柏の青春 毎日が生きる喜び